

茅ヶ崎セントラルクリニック 前田 朋子（看護助手 / 看護部）

功 績	平成3年からの長きにわたりご利用いただいた患者さんに対し、サービス業を超える医療を具現化し、当該患者さんのご家族から心温まるお手紙を頂戴した功績
推 薦 者	若林陽盛
推 薦 理 由	30年以上ご利用いただいた患者さんのご家族からのお手紙の中から、茅ヶ崎セントラルクリニックの理念に沿ったサービスを提供できていたこと、またサービス業を超えた医療を提供できている事例であると考え、推薦させていただきます。

内 容

前田は平成11年から茅ヶ崎セントラルクリニックの看護助手として勤務しています。勤務当初より、透析医療機関としての特性を十分に把握した上で患者さんとコミュニケーションを図ることが出来ています。

そんな中、前田が入職する以前より、当院をご利用頂いているAさん（女性）と出会います。非常に活発だったAさんは透析患者さんとは思えぬほどお元気で、周りの職員や患者さんの様子を逐一観察し、まるでスタッフの一員のような患者さんでした。前田は持ち前のコミュニケーション力を発揮し、少しずつ、Aさんと信頼関係を構築していきました。

その結果、大切にしているものや、育ってきた生活環境などの背景が合致し、お互いを『母上』、そして『嫁』と呼び合うところまで関係が育まれました。

このころから、前田は当院の理念である「家庭的で心の通った看護を提供する」ことを意識し始め、Aさんだけではなく、全ての患者さんに対してそのようなコミュニケーションと看護を提供できるようになっていきました。

残念ながらAさんは徐々に体力が落ち始め、2021年11月にご逝去されてしまいましたが、当院をご利用頂いてから30年以上、周りに新たな透析クリニック、病院が出来た後も通ってくださり、その都度、前田とのコミュニケーションをととても楽しみにしていた様子を、ご家族であるAさんの旦那さんから頂いた手紙で知ることとなりました。手紙の中で、当院に楽しんで通っていた様子、また、遺品の中にあつたバースデーカードを大切にしてくださっていたこと、そしてそれを仏壇に備えて頂いていることなどが記載されていました。

茅ヶ崎セントラルクリニックの大切な理念『専門的な高い技術と家庭的で心の通った看護を提供することで、患者さんの生き活きとした人生を支援する』を体現できていること、そして、サービス業を超えた医療を具現化したことは、理事長賞に値すると考え、推薦いたします。

"